

施餓鬼供養

施餓鬼会は、餓鬼道に落ちて苦しんでいる霊を救うために、食べ物を施して供養する法要ですが、無縁仏(むえんぼとけ)を供養する法要でもあります。

あらゆる餓鬼や無縁仏に施しをすることで、その功德が施主やその先祖にまで及び、それがそのまま先祖追善供養になっていく、というのが施餓鬼の意味です。

施しの心の大切さを教えてくれるとともに、先祖を供養することの大切さを学ぶことのできる行事です。

「餓鬼」とは六道(天上道、修羅道、人間道、畜生道、餓鬼道、地獄道)のうち、餓鬼道に落ちて苦しんでいる亡者のこと。餓鬼が口にしようとするものは忽ち炎と化し、何一つ食べることが出来ず飢えの苦しみには際限がない。自分の力ではこの苦しみから脱することが出来ない餓鬼に、食べ物を施そうというのが「施餓鬼供養」です。

お施餓鬼の豆知識

お釈迦様の弟子に目連尊者(モクレン ソンジャ)という人がいました。

目連尊者はお釈迦さまの弟子の中で神通第一といわれるほど、大変神通力のすぐれた方でした。ある日、目連尊者は亡くなった母親がどうしているかと、神通力を使ってみると、どうしたことでしょう、母親は餓鬼道の世界に落ち、体は痩せこけ、お腹だけ膨らませて、口に入れようとする食べ物すべてが燃え上がり、もがき苦しんでいるではありませんか。

目連尊者の母親は、生前、他人の不幸を省みず、人をだまし、おのれの欲求のみに生きました。その結果が餓鬼道だったのです。

驚いた目連尊者は、お釈迦様に相談しました。

お釈迦様は、修行から出て来たお坊さんたちを供養することによって、母親は餓鬼道の苦しみから救われるだろう。」と言われました。

早速、目連尊者は何百人というお坊さんを供養しました。

そして、神通力で母親の様子を見てみると、母親は餓鬼道より救われ、ニコニコと微笑んでおられました。これがお盆のはじまりです。

私達の先祖もまた、もしかすると餓鬼道に落ちて苦しんでいるかもしれません。私達は凡人ですから、つい欲深い行いを知らず知らずの間のうちに行って、その結果によって餓鬼道の世界に落ちて苦しむかもしれません。

そうした多くの人々を救うためには、今生きている私達が、餓鬼道の世界で苦しんでいる人々の為に、代わって善行を積んで、仏様の慈愛でもって、餓鬼道の世界で苦しむ人々を極楽世界へと導いてもらうということを、施餓鬼と言います。